

群馬大学工学部創立100周年記念講演会

宇宙人文学への招待

～衛星データから浮かび上がる古代遺跡と人々の暮らし～

講師 中野 不二男 京都大学特任教授・元JAXA主幹研究員

1915年に創立した桐生高等染色学校は、1951年に群馬大学工学部となり、2013年には群馬大学理工学部へと改組され、本年、創立100周年を迎えます。群馬大学理工学部は、地元の方々の多大なる協力と貢献により設立され、地域の産業に基づいた色染科・紡織科という二つの学科からスタートしました。100年という時間の中で群馬を中心とした北関東地域とともに発展し、今では大きな五つの部門にさまざまな専門分野を内包する、群馬大学最大の学部になりました。100周年を記念して、地域の皆様にも楽しんでいただけるような数々のイベントを企画しております。今回は、群馬大学太田キャンパスとしても使用されているテクノプラザおおたで講演会を行います。「宇宙-人文学」という新しい話題について、京都大学特任教授の中野不二男先生にお話ししていただきます。皆様のご参加をお待ちしております。

日 時

2015年5月30日（土）
15:00～16:30

場 所

テクノプラザおおた 研修室2
（産学研究棟4階）

アクセス

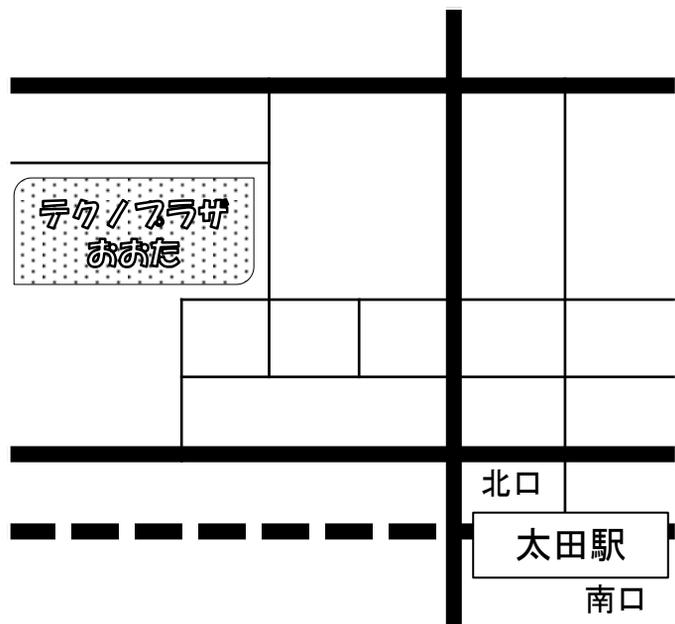
群馬県太田市本町29-1
東武鉄道太田駅北口より徒歩10分

★参加無料。

★事前申込の必要はありません。

お問い合わせ

群馬大学工学部創立100周年記念事業実行委員会事務局（理工学部庶務係）
〒376-8515 群馬県桐生市天神町1-5-1
電話 0277-30-1027 FAX 0277-30-1020
メール bokin100@jimu.gunma-u.ac.jp



中野不二男 (なかの ふじお)

1950年新潟市生まれ。工学博士（東京大学工学系研究科）。京都大学宇宙総合学研究ユニット特任教授。一般財団法人リモートセンシング技術センター参与。ノンフィクション作家。衛星データをもとに、考古学や歴史地理学、古典文学の情報と融合して古代の地形や人の移動ルートを推定する「宇宙-人文学」を提唱し、研究活動を進めている。

1978年渡豪、シドニーのエンジニアリング会社DORR-OLIVER社技術部に勤務のかたわら、連邦政府諸機関からの研究費助成のもとで、先住民アボリジニーに関する調査研究。1982年に帰国後、執筆・研究活動に入る。2007年より宇宙航空研究開発機構（JAXA）未踏技術研究センター主幹研究員・地球観測研究センター併任、主に衛星データを利用した研究開発の分野に入る。2015年、宇宙航空研究開発機構（JAXA）を退職。現在にいたる。



『カウラの突撃ラッパ 零戦パイロットはなぜ死んだか』（文藝春秋社）で日本ノンフィクション賞、『レーザー・メス 神の指先』（新潮社）で大宅壮一ノンフィクション賞受賞。ほか『アボリジニーの国』『メモの技術』『大いなる飛翔』『カラダで地球を考える「完全なる代謝」という発想』『子どもを理科好きに育てる本』など著書多数。

・・・講師からのメッセージ・・・

古地図や古文書には、昔の地形や景観、また地震など自然災害にかんする情報がたくさん含まれています。日本書記の中で、飛鳥時代後期（684年）の白鳳地震の状況を述べている部分などは、その代表的なものでしょう。古文書等については多くの研究がなされているおかげで、私たちにもそうした情報を抽出することは可能です。

いっぽう地球観測衛星に搭載されている各種のセンサーを利用すると、地表の植生や土壌の水分など、さまざまなことがわかります。さらに、地図や航空写真ではよくわからない、特異な地形などに気づくことがあります。しかしそれが何を意味するのか、わからないことも少なくありません。

そこで衛星観測データという宇宙技術と、古地図や古文書などから抽出する情報、いわば人文科学の知識を融合したら、もっと新しい世界が見えてくるかもしれません。「宇宙-人文学」とは、そういう文理融合の新しい領域です。

群馬県は、古代遺跡が多いことで知られています。なかでも東山道、東山道武蔵路の要衝だった太田市には、多くの遺構や遺跡があり、教育委員会による調査が進んでいます。そうした成果と衛星データを融合することにより、“新しい何か”が見えてくるかもしれません。衛星データは、誰でも使うことができます。ぜひ、自分の手で試してみてください。